

NIGHT FLIGHT SPECIAL II

【国内編】そのお金は、どこを流れている？

● 中級レベル

世界で稼いだお金は、日本の中でどう回るのか？

世界編では、日本の会社が、

日本で作って世界へ売る

だけではなく、

海外で事業をする。

海外へ投資する。

海外から所得を得る。

そして海外から日本へ資金が入る。

という、いくつもの航路を持っていることを見てきました。

では、そのお金が日本へ入ったあと、どうなるのでしょうか。

ここから飛行機を日本国内へ戻します。✈

今回追いかけるのは、

「日本経済のお金の血流」です。

企業は「お金の終着駅」ではない

企業が国内外で稼いだとします。

そのお金が銀行口座に入った。

そこで終わりではありません。

会社には、たくさんのお金の使い道があります。

社員への給料

材料や部品の購入

電気代や物流費

工場や機械への設備投資

研究開発

税金

借入金の返済

株主への配当

などです。

つまり企業は、

お金が到着する場所であると同時に、次の場所へ送り出す場所

でもあります。

ここが国内編の出発点です。

大きな工場を一つ造ってみよう

たとえば、ある企業が日本国内に、

1兆円の半導体工場

を造ることにしたとします。

ニュースでは、

「1兆円の大型投資！」

と報道されるでしょう。

しかし、この1兆円が一社の金庫の中だけで動くわけではありません。

まず工場を建てます。

半導体メーカー

↓

建設会社

製造装置を買います。

半導体メーカー

↓

製造装置メーカー

さらに製造装置メーカーは、部品会社から部品を買います。

製造装置メーカー

↓

精密部品メーカー

ほかにも、

材料。

化学薬品。

特殊ガス。

電力設備。

水処理。

物流。

保守。

情報システム。

さまざまな会社へ仕事が広がっていきます。

一つの投資から、枝が伸びていく

ここで大切なのは、

1兆円の工場＝1兆円が一社だけに使われる

という話ではないことです。

一つの設備投資から、

建設

機械

部品

材料

電力

物流

などへ枝が伸びます。

さらに、その会社が別の会社へ注文する。

その会社も材料を買う。

社員へ給料を払う。

こうして、

一つの投資が、別の会社の売上や所得へつながっていく

ことがあります。

これを経済では**波及効果**という言葉で考えることがあります。



でました。「経済波及効果」

難しそうですが、中級編では、

一つの大きな仕事から、周りへ次々と仕事が広がっていくこと

くらいに考えてみましょう。



工場のお金は、町まで来る

工場で働く人が増えれば、給料を受け取る人も増えます。

その人たちは生活します。

食料品を買う。

外食する。

家を借りる。

車を買う。

美容院へ行く。

子どもの教育にもお金を使う。

すると今度は、

工場とは直接取引していなかった町のお店

にもお金が流れます。

つまり、

設備投資



企業の受注

↓

雇用・給料

↓

消費

という流れが生まれます。

ここまで来ると、

「工場建設」という企業ニュース

が、

「地域の暮らし」

へつながってきます。

⚠️ でも「売上が増えた」で喜ぶのはまだ早い

ここで重要な問題があります。

ある部品会社の売上が、

10億円 → 12億円

へ増えたとします。

20%増えました。

ニュースだけ見れば、

「絶好調！」

と言いたくなります。

しかし、本当にそうでしょうか。

その会社では、

原材料費が上がった。

電気料金も上がった。

物流費も上がった。

人件費も上がった。

すると、

売上は増えたのに、会社に残るお金は増えていない

ということもあります。

だから国内編では、

売上だけでは判断しない

ことが重要になります。

💰 でました。「粗利」

ここで登場するのが、

粗利（売上総利益）

です。

たとえば、ある商品を 1000 円で売ったとします。

その商品を仕入れたり作ったりするために直接 600 円かかった。

すると単純化すれば、

$$1000 \text{ 円} - 600 \text{ 円} = 400 \text{ 円}$$

この 400 円が粗利を考える入口になります。

もちろん、この 400 円がそのまま会社の最終的な利益ではありません。

ここから、

人件費。

家賃。

広告費。

研究開発費。

その他の費用。

などが必要になります。

だから、

売上 → 粗利 → 営業利益

と順番に見ていく必要があります。



なぜ中小企業の「粗利」が重要なのか

巨大工場ができれば、周辺の中小企業へ仕事が増えるかもしれません。

しかし、

「仕事をたくさん出すから、安くしてください」

となったらどうでしょう。

中小企業の売上は増える。

でも粗利が残らない。

すると、

社員の給料を十分に上げられない。

新しい機械を買えない。

研究開発もできない。

人も増やせない。

これでは、お金の流れが途中で細くなってしまいます。

だから本当の経済波及を見るなら、

「仕事が来たか」だけではなく、

「適正な価格で仕事を受け、利益を残せたか」

まで見る必要があります。

利益が残れば、次へ進める

では、中小企業にも十分な利益が残ったらどうでしょう。

社員の給料を上げられる。

新しい人を採用できる。

新しい機械を買える。

工場を広げられる。

研究開発もできる。

すると、

大企業の設備投資

から始まったお金が、

中小企業の設備投資

へつながります。

これが非常に重要です。

最初の一社だけが投資するのではなく、

投資が次の投資を呼ぶ

ようになるからです。

「お金の循環」が始まる

ここまでを一本につなげてみましょう。

企業が国内へ投資する

↓

工場が建つ

↓

周辺企業の受注が増える

↓

適正な粗利・利益が残る

↓

賃金が上がる

↓

家計の所得が増える

↓

消費が増える

↓

企業の商品がさらに売れる

↓

企業が次の設備投資をする

こうなると、お金が一度流れて終わりではありません。
ぐるぐる回り始めます。
これが今回の NIGHT FLIGHT で探している、
「日本経済のお金の血流」
です。

💧 「血流」が途中で詰まることもある

ただし、この循環が必ず起こるとは限りません。

たとえば、

大企業が投資した。

でも中小企業へ十分な利益が残らなかった。

すると、

設備投資 → 中小企業

までは流れたけれど、

中小企業 → 賃上げ・次の投資

へ進めません。

あるいは、

企業の利益は増えた。

でも賃金が十分に増えなかった。

すると、

企業利益 → 家計所得

の部分が細くなります。

賃金が増えても物価がそれ以上に上がれば、

家計所得 → 消費

が弱くなることもあります。

だから、

どこでお金の流れが細くなっているのか

を見ることが重要です。

🔄 「配管図」で考えると分かりやすい

日本経済を、大きな水道設備だと考えてみましょう。

世界から入ってきたお金が大きなタンクに入る。

そこから、

企業。

工場。

取引先。

働く人。

家計。

お店。

へ水道管が伸びています。

水が十分にあるだけではダメです。

途中の管が細かったり、詰まっていたりすれば、末端まで水が届きません。

つまり、

****「日本にお金があるか」だけではなく、**

「お金がちゃんと流れているか」を見る。**

これが国内編の考え方です。

 **ところが今度は「教室が足りない」**

さらに問題があります。

企業が、

「日本にもっと工場を造ろう！」

と思っても、すぐには造れません。

工場を建てる人が必要です。

技術者も必要です。

土地も必要です。

電力も必要です。

水も必要です。

部品も必要です。

物流も必要です。

つまり、

投資したいお金はあっても、それを受け止める能力が足りない

ことがあります。

ここで例の、

「教室が足りない」

という話につながります。

子どもが急に増えても、翌日から学校を倍にはできません。

同じように、投資が急増しても、

工場。

人材。

電力。

物流。

などを翌日から倍にはできません。

この問題は、次の区画で詳しく見ていきます。

日本復活を見るなら「途中」を見る

最初の 4158 兆円の話へ戻ってみましょう。

「日本には巨大な資産がある」

だけでは、日本復活を判断できません。

さらに、

「巨大工場ができた」

だけでも十分ではありません。

私たちが見たいのは、その途中です。

設備投資は増えた？

↓

周辺企業の受注は増えた？

↓

粗利は残った？

↓

利益は増えた？

↓

賃金は上がった？

↓

消費は増えた？

↓

次の設備投資につながった？

この一つ一つが、

日本経済の健康診断

になります。

中級レベルのポイント

国内編で一番大切なのは、

「お金が入ってきた」で終わらないこと。

そのお金が、

企業

↓

工場

↓

中小企業

↓

働く人

↓

家計

↓

消費

↓

次の投資

まで流れているかを見る。

そして途中で、

「どこか詰まっていない？」

と確認する。

だから私たちは、

資産額だけ

でも、

GDP だけ

でも、

株価だけ

でも、

工場の投資額だけ

でも判断しません。

お金の「流れ」そのものを見る。

🔗 そして次の「？」へ

ここまでで、大きな工場から始まったお金が、周辺企業や家計へ流れる仕組みが見えてきました。

しかし、新しい問題が出てきました。

企業が、

「もっと日本へ投資したい」

と思っても――、

人は足りる？

電力は足りる？

工場を建てられる？

部品を作れる？

そこで次に登場するのが、

🏠 「企業は日本へ帰ってきた。でも“教室”が足りない」

という問題です。

不足は日本復活を止める壁なのでしょうか。

それとも――、

その不足こそが、次の設備投資を生むのでしょうか。

 寄り道研究所

NIGHT FLIGHT SPECIAL II 【国内編】

● 中級レベル解説でした。

さらに、設備投資・付加価値・粗利・営業利益・賃金・消費・経済波及効果を経済統計と結びつけて見たい方は、

● 上級～一般教養レベルへ。

 次の寄り道へ、ご搭乗ください。